

令和6年3月25日

## 令和5年度 施設関係者評価報告書

学校法人鷺森学園は教育・保育目標や計画等をはじめとする園運営について自己点検・自己評価を実施し、「令和5年度施設関係者評価報告書」を作成し、当園のホームページに公表いたしました。

また「施設関係者評価委員会」を設置し、当園に関連する保護者・卒園生の方々や教育関係者の皆様より当園の幼児教育及び運営に対し、ご意見ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見につきましては「令和5年度施設関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は頂きましたご意見等をさらなる教育・保育に生かし、さらに認定こども園ひのまる幼稚園が向上していけるよう職員一同努力いたします。

関係者の皆様には今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜ります様よろしく  
お願いいたします。

学校法人鷺森学園  
認定こども園  
ひのまる幼稚園  
園長 吉藤 克子

# 令和5年度 自己評価・施設関係者評価シート

学校法人鷺森学園

認定こども園ひのまる幼稚園

## 1. 園の教育目標

本園は、「まっすぐに たかく おおきく うつくしく」を教育方針として掲げ、

- ・節度ある子を育てよう
- ・思いやりのある子を育てよう
- ・考える子を育てよう

の3点を保育指針として挙げている。1歳から就学前までの期間を、子どもたち一人ひとりがこれからの多種多様な社会・文化の中で生きていくための基礎を培っていけるよう手助けを行います。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

年間指導計画をもとに、教職員がその内容を確認しながら共通理解を図り、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い保育・教育の実践を目指す。

季節の遊びや行事など園児のすこやかな成長を手助けするための活動を取り入れ行う。

異年齢での活動を通し相手を思いやる気持ちや一緒に何かを成し遂げる力を養う。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組内容	自己評価	評価
教育保育課程	<ul style="list-style-type: none"><li>・認定こども園の状況を踏まえた教育目標・重点目標の設定</li><li>・年間の指導計画や週案の作成</li><li>・教員間の協力的な指導状況</li><li>・各クラスの運営の成果と課題</li><li>・異年齢活動（なかよしグループ）</li></ul>	<p>本園の保育目標を全職員で共有し、年間の指導計画・週案の作成に力を入れた。</p> <p>例年通りの指導計画・週案作成の中でいろいろな遊び等に発展させていった。</p> <p>コロナ禍前のように、異年齢活動（なかよしグループ）の計画を立て、異年齢でかかわる機会を増やした。</p>	A
研修 （資質向上 の取組）	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育の質の向上を図る</li><li>・園内研修</li><li>・園外研修</li></ul>	<p>研修に積極的に参加し、保育の質を高める努力を行った。</p> <p>西蒲区主催の各学年の研修会に参加し他園の保育者との情報交換や公開保育に参加した。</p> <p>中堅の先生たちは今年度マネジメント研修に励んだ。</p>	A
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設整備の安全、維持管理のための整備</li><li>・遊具・用具・図書の本整備</li><li>・季節の草花を植える （チューリップ）</li></ul>	<p>毎朝、早番が園庭や園の周りを確認し遊具等危ないところがないか点検した。</p> <p>春はチューリップ、夏は朝顔のグリーンカーテンと季節の花々を感じられるようにしたが昨年チューリップを植えた年中組（現年長）が植えるだけで終わり花が咲いてからの観察やお世話が足りなかったのではないかと感じた。</p>	B

評価項目	取組内容	自己評価	評価
食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の栽培 年少：ゴーヤ→年少 年中：ナス・パプリカ・ピーマン・オクラ 年長：さつまいも</li> <li>・植物の成長に目を向ける</li> <li>・栄養士から食育指導を受ける</li> <li>・野菜の皮むき・筋とり</li> </ul>	<p>新潟市の緑のカーテンプロジェクトに参加し年少組がゴーヤの栽培を行った。年中組は4種類の野菜を栽培し、それぞれの野菜の花から実になる姿を観察し学んだ。とれた野菜の切り口でスタンプを押し制作物を作ったりした。</p> <p>収穫した各学年の野菜を給食の食材として出してもらい栽培から食までの学びをすることができた。</p> <p>毎月の食育指導で各学年が調理前の食材に触れ、自分たちが下処理した給食を食べることで食への関心を高める。</p>	A
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の理解を深める</li> <li>・該当児に対しての個別の配慮</li> <li>・医療・福祉などの関係機関との連携</li> <li>・家庭との連携</li> <li>・療育施設からの見学・共通認識</li> </ul>	<p>特別支援関係の研修に出席し、特別支援における質の向上を図った。</p> <p>気になる園児に対しては保健師や発達支援相談機関と密に連絡をとり、対応を協議した。</p> <p>他の施設にも通っている園児には、園・保護者・施設の共通認識をもって保育にあたった。</p> <p>個別の指導計画をたて、行った。</p>	A
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て相談の実施</li> <li>・未就園児親子登園の実施</li> <li>・子育て情報の提供</li> <li>・園や教職員による受入体制状況</li> </ul>	<p>未就園児の親子を対象に、どれみクラブ（担当職員2名）を継続実施した。子育てに関する相談等が多くなり、個別に対応した。</p> <p>保護者同士の関わりの場を提供できるように、交流を深められるよう援助した。</p>	A
預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の実情や要望による預かり保育の実施</li> <li>・園や教職員による受入体制状況</li> <li>・登降園管理システムによる正確な把握</li> </ul>	<p>年々、土曜保育が必要な園児・保護者が増えてきている。</p> <p>保護者の仕事の関係上、やむを得ず閉園時間以降の延長保育となる園児もおり、職員の勤務時間を細かく細分化して対応した。</p>	A
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス対応</li> <li>・家庭や医療機関等の連携</li> <li>・日常の健康観察、疾病予防</li> <li>・健康診断</li> <li>・事故等の緊急事態発生時の対応</li> <li>・職員の健康管理</li> </ul>	<p>コロナウイルス感染予防の為、園児・職員の日々の検温、手洗い・うがい、保育室等の換気、園舎・遊具等の消毒を徹底した。</p> <p>学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。</p> <p>流行性の感染症が流行った場合は園の感染状況を保護者メールで知らせた。</p> <p>職員の健康診断の継続実施及び、インフルエンザ予防接種の推奨・補助、コロナウイルスワクチン接種の推奨。</p>	A

安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル等の見直し、確認、活用</li> <li>・安全点検、教職員の安全対応能力の向上</li> <li>・園バスの乗降車についての確認の徹底</li> <li>・不適切な保育の防止</li> </ul>	<p>2人以上での紙によるバス乗車確認表の確認、登降園管理システムによるICTを使った確認、連絡がなく登園していない園児に対する家庭への連絡の徹底。不適切な保育に対しての職員間の共通認識、研修、話し合いをした。</p> <p>1月に地震がありそれに伴い、地震からの火災や地震からの津波避難等組み合わせの訓練も必要と感じた。</p>	B
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事における保護者参加</li> <li>・行事における反省や改善</li> <li>・園だより、クラスだよりの発行</li> <li>・登園・降園時</li> </ul>	<p>コロナが落ち着き、今年度より年長の親子遠足を復活させた。</p> <p>園だより・クラスだよりの発行において、保育状況・園の考えを伝え、保護者と情報共有を図った。</p> <p>登園・降園時において、常に玄関に保育者を配置し、保護者と連絡をとり連携を密にした。</p>	A

#### 4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

	理由
A	<p>コロナが5類となり異年齢活動（なかよしグループ）をたくさん行う事ができた。卒園間近の年長組さんとの思い出は？と聞くと「身体測定でお世話してもらったこと」などと挙げる園児もあり、異年齢の関わりの中で自分たちも大きくなったらしい小さい子たちにしてあげたいという気持ちの芽生え等にもつながっている。</p>

#### ◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

#### 5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
チューリップの花の観察	次年度も継続してチューリップの成長を観察し、植えた学年にかかわらず花びらなどを使って遊びや制作などに発展してみる。
震度5以上の地震がきた場合の避難の仕方	避難訓練に地震の規模によって変わる訓練の仕方を行う。災害伝言ダイヤルの仕方の確認。

#### 6.施設関係者評価委員会の意見

<p>食育に関して、畑で野菜を育て収穫し、給食で出してもらおうという経験をしたことで、子どもは苦手な野菜を食べることができるようになりました。このような食育活動を家庭で行くことはなかなか難しいので、今後も続けていってほしいです。</p> <p>元日にあった地震では、子どもが携帯の緊急地震速報の音がストレスになっているような時もありました。園では地震を想定した避難訓練など行っていると思いますが、様々な状況を想定した避難訓練を行い、今後も災害時に備えてほしいなと思います。</p>
--